

右慶安二年

公儀より普あまねく触ふれしめされ候御書付二候、

何方いづかたにてもさそありかたく、畏かしこまり奉りし

事たるべく候へとも、歳月隔としつきへたり候へは

今ハ知る人もすくなかるへく候、かかる

有かたき御惠めぐみの御趣意しゆいなれハ、此たひ

改あらためて支配所しはいしよ百姓ともへ相諭あひかたし候間、

村々庄屋・組頭より小百姓まで、この旨

をもつて朝夕怠おこたりなく、面々めんめん能身よくみを

もち、農業精出のうげふせいし候ハ、此末たとひ

年柄としがらよからぬ時ありとも、御年貢ごねんぐ

滞とどこほりなく、家族かぞくも寒餓かんがには至まし

く候、但箇條たゞしかじようの中に商あきなひ心もありて、

身上持あけ候様やうにとの儀ハ、取とやうに